

# HTML 入門

緑川章一

HTML とは、HyperText Markup Language の略である。マークアップ言語 (Markup Language) とは、タグ (< と > によって囲まれた表現方法の指示) によって構造化された言語である。

## 1 基本構造

メモ帳を開いて、以下の sample0.html の内容を記述する。拡張子 (ドット. の後) は、html とする。ファイルを閉じたあと、プログラムを修正する場合には、アイコンを左クリックし、「プログラムから開く」の中のメモ帳を選択する。

sample0.html

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title></title>
<script>
  // ここには、JavaScript を記述します。
</script>
</head>
<body>

  <!--
    ここには、HTML 言語で本文を記述します。
    これは、表示されません。
  -->

  これは、表示されます。

</body>
</html>
```

このファイル ( sample0.html ) をダブルクリックで開くと、「これは、表示されます。」だけが表示されます。

【注】

- (1) <html>, </html>, <head>, </head>, <script>, </script> などのように、鍵カッコ <> で囲まれたものをタグ (荷札) と言う。タグは開始タグと終了タグ (/が付いている) でセットになっている。
- (2) <!DOCTYPE html> で文書が HTML5 の規格であることを宣言する。
- (3) <html> ~ </html> で囲まれた内容が HTML 文書であることを宣言する。
- (4) <html lang="ja"> html 文書は日本語 (ja) で書かれていることを表す。
- (5) <head> ~ </head> には、文字コードやタイトル、JavaScript や CSS の読み込みなど、本文に表されない文書自身に関するメタ情報を書く。
- (6) <meta charset="UTF-8"> 文字コードを記述する。ここでは、UTF-8 を用いる。文字コードとしては、shift\_jis など用いられるが、現在では、UTF-8 が世界標準となっている。
- (7) <title> ~ </title> にタイトル (題名) を書く。
- (8) <script> ~ </script> には、必要ならば、JavaScript で命令を記述する。もちろん、何も書かなくとも良い。プログラムの機能や使用方法についてのコメント (注釈) を書く場合には、// から始める。// 以降の文章は、プログラムとして実行されない。
- (9) <body> ~ </body> に本文を記入する。コメント文は、<!-- と --> の間に書く。

## 2 やってみよう

sample0.html のコピー sample1.html を作り、<title> と <body> の中身を次のように書いてみよう。

```
sample1.html
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>HTML 入門</title>
<script>
  // ここには、JavaScript 言語で記述します。
</script>
</head>
<body>

<font color="red">                                <!--赤色を指定 -->
<h1 align="center">はじめての HTML</h1> <!-- 見出しには、<h1> ～ <h6> を用いる。-->
</font>
<font color="purple" align="left">
<h2>草枕</h2>
</font>
<font color="blue">
<h3>夏目漱石 </h3>
</font>
<font color="green">
  <p> 山路を登りながら、こう考えた。</p>
  <p> 智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。
  とかくに人の世は住みにくい。</p>
  <p> 住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、
  詩が生れて、画が出来る。</p>
</font>

</body>
</html>
```

結果は、sample1.html で確認できます。

注

- (1) 文字の色指定は、<font>タグで行うのが便利である。指定方法は、red(赤), orange(橙), yellow(黄), green(緑), blue(青), indigo(藍), purple(紫), black(黒), gray(灰色), white(白) などとカラー名を書くか、R(赤)、G(緑)、B(青) の各色を 1 バイト=8 ビット、すなわち、 $2^8 = 256$  段階で表す。例えば、"red" は、"#ff0000"のように表す。
- (2) 文書の位置は、align(整列の意味) で指定します。左寄せは left, 中寄せは center、右寄せは right です。
- (3) 改行は <br> ですが、段落 (paragraph) を表す場合には、その段落を <p> と </p> で囲みます。

## 3 もっとやってみよう

### 3.1 フォントの種類

今まで使ったフォントは標準のものでした。フォント (font) の種類を指定するには、font タグに face = " …" を追加します。ここで、…にフォント名を書きます。それらには、

fantasy	: 装飾フォント
cursive	: 草書体系フォント
HG 行書体	: 行書体系フォント
serif	: 明朝系フォント
sans-serif	: ゴシック系フォント
monospace	: 等幅フォント

などがあります。ただし、PC やブラウザによって見え方が違うようです。

### 3.2 ハイパーリンクの作成

文書中のある部分から、別のページにジャンプできるようにすることをリンクを張ると言います。その書き方は、以下の通りです。

```
<a href="ジャンプ先の URL">リンクを張る文字列</a>
```

例えば、文書中に「基礎力の青森大学」という言葉があって、そこから青森大学のホームページのトップに移動できるようにするためには、

```
<a href="http://www.aomori-u.ac.jp/">基礎力の青森大学</a>
```

のように書きます。

最近のホームページでは、YouTube の動画を埋め込んだサイトを良く見かけます。これを行うには、以下のようにします。

1. 埋め込みたい YouTube の動画に移動する。
2. 動画の下にある [共有] をクリックする。
3. [埋め込みコード] をクリックする。
4. ボックスに表示されている HTML コードをコピーする。

5. 作成中のウェブサイトにコピーしたコードを貼り付ける。

それでは、sample2.html を作ってみましょう。ソースコードは以下の通りです。

```
sample2.html
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title></title>
<script>
  // ここには、JavaScript 言語で記述します。
</script>
</head>
<body>

<center>
<font face="fantasy">
<h1>
The fundamental things apply as time goes by.
</h1>
</font>
<font face="HG 行書体">
<h2>
基本的な事柄は、時の過ぎゆく中で通用する。
</h2>
</font>
<a href="http://www.aomori-u.ac.jp/">
<font face="serif"><h1>基礎力の青森大学</h1></font></a>
</font>
<br>
<br>
  <iframe width="336" height="252" src="https://www.youtube.com/embed/EPSzkpNucV8"
    frameborder="0" allowfullscreen></iframe>
</center>

</body>
</html>
```

結果は、sample2.html で確認できます。

## 4 フォーム機能

フォーム機能とは、テキスト入力、ボタン、チェックボックス、ラジオボタンなど、ユーザーからの入力を受け付ける様式 (form) のことです。これにより、送信側と受信側でデータの送受信が可能となります。

フォームの要素をウェブに付け加えるには、`<input>` タグを用います。例えば、テキストとボタンを付け加えるには、以下のようにします。

```
sample3-1.html
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title></title>
<script>
  // ここには、JavaScript 言語で記述します。
</script>
</head>
<body>

<form name="f1">
  <input type="text" size="30">
  <br>                                <!-- 改行 -->
  <input type="button" name="btn" value="ボタン">
</form>

</body>
</html>
```

結果は、sample3-1.html で確認できます。

テキストフィールドとボタンは付けることができましたが、これだけでは何も実行することができません。フォームを操作する命令は、JavaScript で行います。

## 5 JavaScript 入門 (1)

sample3-1.html では、web ページにホーム機能を付け加えました。これだけでは、何の面白みもありません。それでは、テキストに入力した値を取得したり、ボタンを押すとページを更新したりするような機能を持たせてみましょう。そのためには、JavaScript を用います。これは、Web ページ動作を制御する目的でつくられたスクリプト言語です。

最も簡単な例として、テキストフィールドに名前を入力して、ボタンを押すと「こんにちは、〇〇さん。」と名前を返すプログラム (sample3-2.html) を作ってみましょう。

sample3-2.html

```
<html>
<head>
<title>ご挨拶</title>
<script>

function onClick(){
    var str1=document.getElementById("txt").value;
    var str2=document.getElementById("display");
    str2.innerHTML=' こんにちは'+str1+' さん';
}

</script>
</head>
<body>
<form name="f1">
    <input type="text" size="30" id="txt">
    <br>
    <input type="button" name="button" value="ボタン" onclick="onClick()">
    <br>
    <p id="display"></p>
</form>

</body>
</html>
```

### プログラムの説明

- (1) ボタンの後にパラグラフ `<p id="display"></p>` を加えます。
- (2) テキストフィールドとパラグラフに、各々、txt, display と名前 (id) を付けます。  
`<input type="text" size="30" id="txt">`

`<p id="display"></p>`

- (3) ボタンに `onclick` 属性を記述して、ボタンを押したときに JavaScript で書かれた関数 `onClick()` を呼び出します。

`<input type="button" name="button" value="ボタン" onclick="onClick()">`

- (4) テキストフィールドに書かれた内容 (`value`) を変数 `str1` に代入します。

`var str1=document.getElementById("txt").value;`

- (5) パラグラフ `<p id="display"></p>` の内容を変数 `str2` に代入します。

`var str2=document.getElementById("display");`

もちろん、パラグラフには、何も書かれていませんから、`str2` の中身は空っぽです。

- (6) `str2` の内容を、`'こんにちは'+str1+'さん'` と書き換えることは、次のようにして行います。

`str2.innerHTML='こんにちは'+str1+'さん';`

結果は、`sample3-2.html` で確認できます。



## 6 JavaScript 入門 (2) 更なる改良

sample3-2.html で、当初の目的は達成されましたが、テキストフィールドが空欄のままの場合に、ボタンを押すと、「こんにちはさん」とおかしいことになります。そこで、テキストが空っぽの場合は、名前の入力促すように改良しましょう。そのためには、script に、以下命令を付け加えるだけです。

```
if(str1)
    str2.innerHTML=' こんにちは'+str1+' さん';
else
    str2.innerHTML = ' 名前を入力してください。';
```

sample3-3.html

```
<html>
<head>
<title>ご挨拶 (2)</title>
<script>

function onClick(){
    var str1=document.getElementById("txt").value;
    var str2=document.getElementById("display");
    if(str1)
        str2.innerHTML=' こんにちは'+str1+' さん';
    else
        str2.innerHTML = ' 名前を入力してください。';

}
</script>
</head>
<body>
<form name="f1">
    <input type="text" size="30" id="txt">
    <br>
    <input type="button" name="button" value="ボタン" onclick="onClick()">
    <br>
    <p id="display"></p>
</form>

</body>
</html>
```

結果は、sample3-3.html で確認できます。

## 7 応用例題

それでは、今まで学習したことをもとに、「質問コーナー」(sample3f.html) を作成してみましょう。

```
<html>
<head>
<title>質問コーナー</title>
<style>
div1{
    position:relative;
    left: 300px
    top: 0px;
}
</style>
<script>
    document.write('<br><br><br>');
function onClick(){
    var str1=document.getElementById("txt").value;
    var str2=document.getElementById("display");
    if(str1){
        str2.innerHTML='<h3>友よ、答は風の中に。<br><br>' +
        '<font face="cursive">The answer, my friend, is blowing in the wind. <br>' +
        'The answer is blowing in the wind. </font></h3>'+
        '<center><iframe width="420" height="315" ' +
        'src="https://www.youtube.com/embed/vWwgrjjIMXA" ' +
        ' frameborder="0" allowfullscreen></iframe></center>';
    }else{
        str2.innerHTML ='<font color="red"><b> 質問を入力してください。</b></font>';
    }
}
</script>
</head>
<body>
<div1>
<center>
<h2><font face="serif"> 質問コーナーです。何でもお気軽にお尋ねください。</font></h2>
<br>
```

```

<form name="f1">
  <textarea type="text" rows="5" cols="60" id="txt" ></textarea>
  <br>
  <br>
  <input type="button" name="button" value="回答" onclick="onClick()">
  <br>
  <p id="display"></p>
</form>
</center>
</div1>
</body>
</html>

```

結果は、sample3f.html をご覧ください。

## 8 css 入門

先ほどの例 (sample3f.html) には、

```

<style>
div1{
  position:relative;
  left: 300px
  top: 0px;
}
</style>

```

が新たに現れましたが、これは <div1> と </div1> で囲まれた要素の位置を指定するためのスタイルファイルです。このように HTML のスタイルは、HTML とは別の所に記述するのが良いとされています。そのためを使うのが CSS で、これは Cascading Style Sheet の略です。

### CSS の書き方

css の書き方は以下の通りです。

```

セレクト {
  プロパティ: 値;
  プロパティ: 値;
  :
}

```

ここで、セレクトタには、タグ名を書きます。このタグでかこまれた要素の位置や、フォントのサイズ、色などの性質 (プロパティ) を値で指定します。この値とは、数値の場合が多いですが、必ずしも数値とは限りません。例えば、位置のプロパティを指定する場合には、absolute や relative などが用いられます。また、フォントの色を指定する場合の値は red のように英語の色名を用いることもできます。

それでは、sample1.html を css を用いて書き直しましょう。ついでに、漱石先生の写真も貼り付けてみましょう。画像を挿入するときには、

```

```

などと書きます。ここで、img は、image(画像) の略です。イメージファイルとしては、JPG, GIF などを用います。alt は、alternet(代役) の略で、画像そのものが表示できないときに、文字の『画像』を表示します。

以上の修正をおこなった後のソースファイルは、次のようになります。

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>HTML 入門</title>
<script>
</script>

<style>
body{
  position:relative;
}
h1{
  color : red;
  text-align : center;
}
h2{
  color: purple;
  text-align: left;
}
h3{
  color: blue;
}
div{
  color: green;
}
```

```

div2{
    position:absolute;
    left: 850px;
    top: 50px;
}
</style>
</head>
<body>

<h1>はじめての HTML</h1>

<h2>草枕</h2>

<h3>夏目漱石</h3>

<div>
    <p> 山路を登りながら、こう考えた。</p>
    <p> 智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。
    とかくに人の世は住みにくい。</p>
    <p> 住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、
    詩が生れて、画が出来る。</p>
</div>

<div2>

</div2>

</body>
</html>

```

どうですか。<body> … </body> の中は、すっきりしました。結果は、sample1-2.html で確認できます。

## 縦書きに挑戦

次に、縦書きに挑戦します。題材は、歌舞伎『三人吉三廓初買』の「大川端庚申塚の場」における有名な長ゼリフです。「そんなのは知らねえ」と言う人もいるでしょうが、決めのセリフ、

「こいつぁ春から 縁起がいいわえ」

は、聞いたことがある人も多いのではないのでしょうか。

```
<!doctype html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title> </title>
<style>
body{
  padding: 20px;
  margin-left: -200px;
  writing-mode: tb-rl; //IE
  writing-mode: vertical-rl;
  font-family: HGP 行書体;
}

h1{
  font-size: 30px;
}

h2{
  font-size: 26px;
  color: black;
}

div{
  color: darkblue;
  font-size: 24px;
}

div2{
  position:relative;
  left: 830px;
  top: 270px;
}

</style>
<script>
</script>
```

```

</head>
<body>
<br>
<br>
<h1><ruby>三人吉三廓初買<rt>さん</rt>にんきちさくるわのはつがい</h1>
<h2>                <ruby>河竹黙阿弥<rt>かわたけもくあみ</rt></ruby></h2>
<br>
<div>
<p><ruby>月<rt>つき</rt></ruby>も<ruby>朧<rt>おぼろ</rt></ruby>に
<ruby>白魚<rt>しらうお</rt></ruby>の </p>
<p><ruby>篝<rt>かがり</rt></ruby>も<ruby>霞<rt>かす</rt></ruby>む 春の空 </p>
<p>冷てえ風も ほろ<ruby>酔<rt>よい</rt></ruby>に </p>
<p><ruby>心持<rt>こころも</rt></ruby>ちよく うかうかと </p>
<p>浮かれ<ruby>烏<rt>がらす</rt></ruby>の <ruby>只一羽<rt>ただいちわ</rt></ruby> </p>
<p><ruby>時<rt>ねぐら</rt></ruby>へ帰る <ruby>川端<rt>かわばた</rt></ruby>で </p>
<p><ruby>棹<rt>さお</rt></ruby>の<ruby>雫<rt>しずく</rt></ruby>か
<ruby>濡手<rt>ぬれて</rt></ruby>で<ruby>粟<rt>あわ</rt></ruby> </p>
<p>思いがなく 手に<ruby>入<rt>い</rt></ruby>る百両 </p>

<p>ほんに今夜は <ruby>節分<rt>せつぶん</rt></ruby>か </p>
<p>西の海より 川の中 </p>
<p>落ちた<ruby>夜鷹<rt>よたか</rt></ruby>は <ruby>厄落<rt>やくおと</rt></ruby>し </p>
<p><ruby>豆沢山<rt>まめだくさん</rt></ruby>に <ruby>一文<rt>いちもん</rt></ruby>の </p>
<p><ruby>銭<rt>ぜ</rt></ruby>と違って <ruby>金包<rt>かねづつ</rt></ruby>み </p>
<p>こいつあ春から <ruby>縁起<rt>えんぎ</rt></ruby>がいいわえ </p>
<br>
</div>

<div2 class="box">

</div2>

</body>
</html>

```

結果は、sample4.html でご覧いただけます。

## 9 ビデオの公開

ビデオを公開する方法としては、YouTube に代表される動画配信サービスを利用する方法が一般的です。サービスにアップロードした動画を 3.2 節で説明した方法でウェブページに貼り付けることができます。ここでは、動画配信サービスを利用しないで済みます方法について解説します。

### 9.1 リンクを張る

最も手っ取り早い方法は、ウェブページにビデオのハイパーリンクを作成する方法です。例えば、同じフォルダに置かれた AodaiPV-ver01.mp4 にリンクを張る場合には、

```
<A href="AodaiPV-ver01.mp4"> 青森大学 1 </A>
```

と書くだけです。以下に例を示します。

```
sample5-1.html
<!doctype html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title> </title>
<style>
body{
padding: 50px;
margin: 30px;
}
</style>
<script>
</script>
</head>
<body>
<center>
<h1>ビデオによる青森大学紹介</h1>
<h3>これは 2014 年に制作したものです。</h3>
<A href="AodaiPV-ver01.mp4"> 青森大学 1 </A><br>
<br>
<A href="AodaiPV-ver02.1.mp4"> 青森大学 2 </A>
</center>
</body>
</html>
```

結果は、sample5-1.html でご覧いただけます。



## 9.2 動画を埋め込む

動画の埋め込みには、`<iframe>` タグを利用します。これは、3.2 で YouTube の動画を埋め込むときに使ったものです。iframe は、inline frame の略で、ある枠組み (frame) の中に別の枠組み (frame) を作ることで、次の例では、

```
<iframe src="AodaiPV-ver01.mp4" width="690" height="419"></iframe>
```

の部分で埋め込みを行っています。

```
sample5-2.html
<!doctype html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title> </title>
<style>
body{
  padding: 50px;
  margin: 30px;
}
</style>
<script>
</script>
</head>
<body>

<center>
  <h1>ビデオによる大学紹介</h1><br>
  <h3>これは 2014 年に制作したものです。</h3>
  <iframe src="AodaiPV-ver01.mp4" width="690" height="419"></iframe>
</center>

</body>
</html>
```

結果は、sample5-2.html でご覧いただけます。

## 9.3 複数の動画の再生

今回のデモに用いた動画は、2 部構成です。これを 9.2 節の方法で 2 つの inline frame を用いて行くと、間が抜けているように見えます。そこで、JavaScript を使って 1 つのフレームで 2 つの動画を切り替えて再生

するようにします。この切り替えは、onClick() 関数を用いて行います。動画の切り替えと同時に、ボタンの表示も変更します。

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>タイトル </title>
<style>
body{
  padding: 50px;
  margin : 30px;
  top: 0px;
}
</style>
<script>
  var str1;
  function onClick(){
    var image=document.getElementById('image');
    var btn = document.getElementById('btn');
    if(str1){
      image.src='AodaiPV-ver01.mp4';
      btn.innerHTML="第 2 部へ";
      str1="";
    }else{
      image.src='AodaiPV-ver02.1.mp4';
      btn.innerHTML="第 1 部へ";
      str1="1";
    }
  }
</script>
</head>
<body>
<center>
  <h1>ビデオによる大学紹介</h1><br>
  <h3>これは 2014 年に制作したものです。</h3>
  <p> <iframe id="image" width="600" height="390" src="AodaiPV-ver01.mp4"
    frameborder="0" allowfullscreen></iframe> </p>
```

```
</center>
  <center>
    <button id="btn" onclick="onClick()">第 2 部へ</button><br>
  </center>
  <br>

</body>
</html>
```

結果は、sample5-3.html でご覧いただけます。

## 10 サウンド

### 10.1 コントローラによる再生

```
sound1.html
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="utf-8">
<title> </title>
<style>
  body{
    padding: 30px;
    margin-left: 100px;
    font-size : 20px;
  }
</style>
</head>
<body>
<h1><p> サウンドテスト</p></h1>
<h2><p> コントローラの表示</p></h2>
440 ヘルツの音
<br>
<audio src="sin.wav" controls></audio>
<br>
<br>
440 ヘルツと 442 ヘルツの音の唸り
<br>
<audio src="beat.wav" controls></audio>
<br>
<br>
音色 (440 ヘルツと倍音の重ね合わせ)
<br>
<audio src="timbre.wav" controls></audio>
</body>
</html>
```

## 10.2 自動再生 (オートプレイ)

```
saound2.html
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="utf-8">
<title>sound</title>
<style>
  body{
    padding: 30px;
    margin-left: 100px;
    font-size : 20px;
  }
</style>
<script>
</script>
</head>
<body>
<h1>
<p> サウンドテスト (オートプレイ)</p>
</h1>
<br>
sin2.wav の再生
<br>
<audio src="sin2.wav" autoplay>
</audio>
```

### 10.3 ループ再生

```
sound3.html
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">

<head>
<meta charset="utf-8">
<title>sound</title>
<style>
  body{
    padding: 30px;
    margin-left: 100px;
    font-size : 18px;
  }
</style>
</head>

<body>
<h2>
<p> サウンドテスト (ループ再生)</p>
</h2>
<br>
siren.wav の再生
<br>
<audio source src="siren.wav" autoplay loop>
</audio>
</body>

</html>
```

## 10.4 JavaScript による再生

```
sound4.html
<head>
<meta charset="utf-8">
<title> sound</title>
<style>
  body{
    padding: 30px;
    margin-left: 200px;
    font-size : 60px;
    color : red;
  }
</style>
<script>
onload=function(){
  document.getElementById("aaa");
}
</script>

</head>
<body>
<p> JavaScript によるサウンドの再生</p>
<p>注意! 画面を開くと警告音が鳴ります。</p>
<br>
<br>
<audio id="aaa" autoplay>
<source src="beep.wav">
</audio>

</body>
</html>
```